



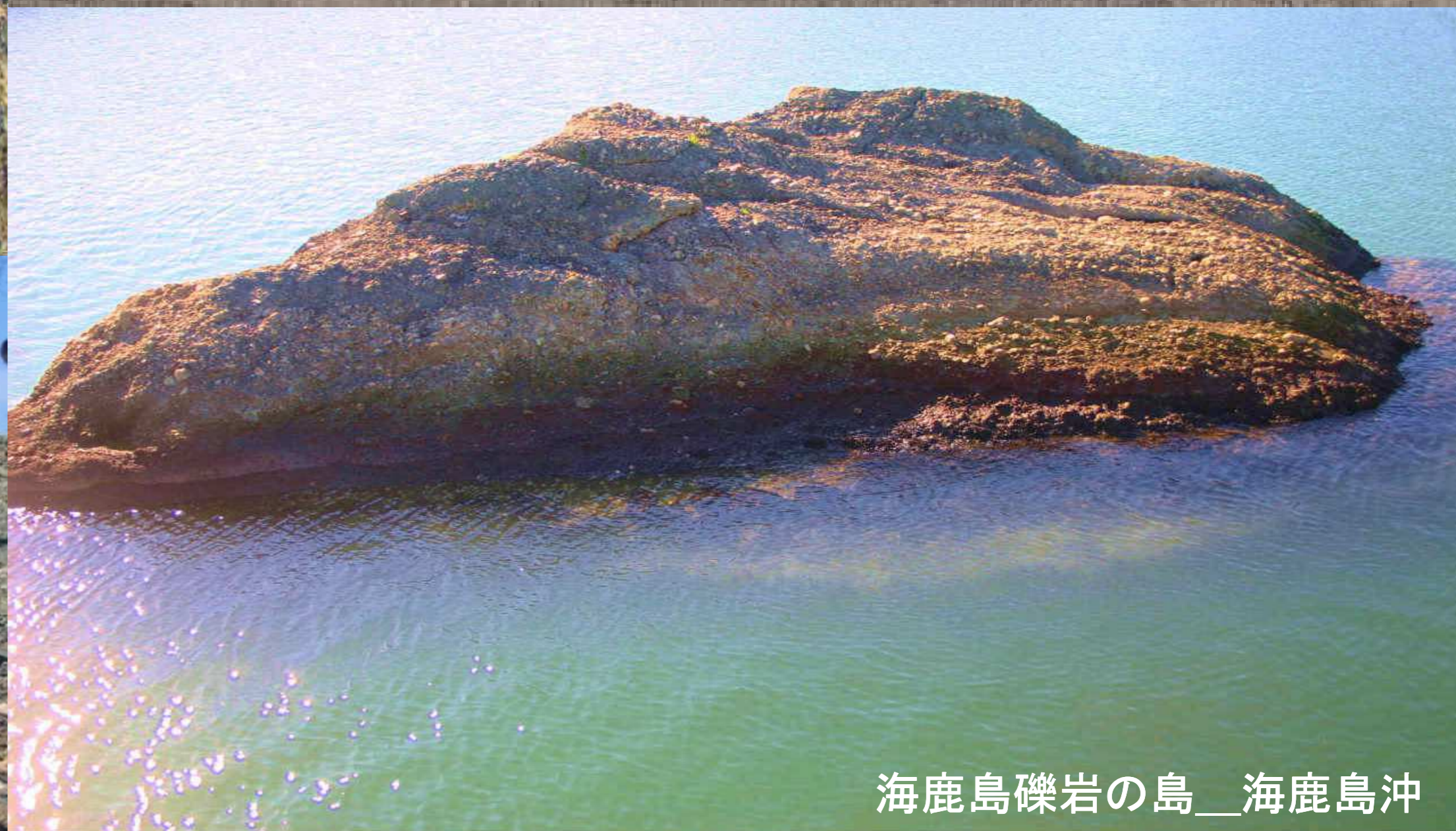
海鹿島礫岩 黒生漁港



トンビ岩と美賀保丸遭難の碑 黒生



海鹿島礫岩 黒生漁港

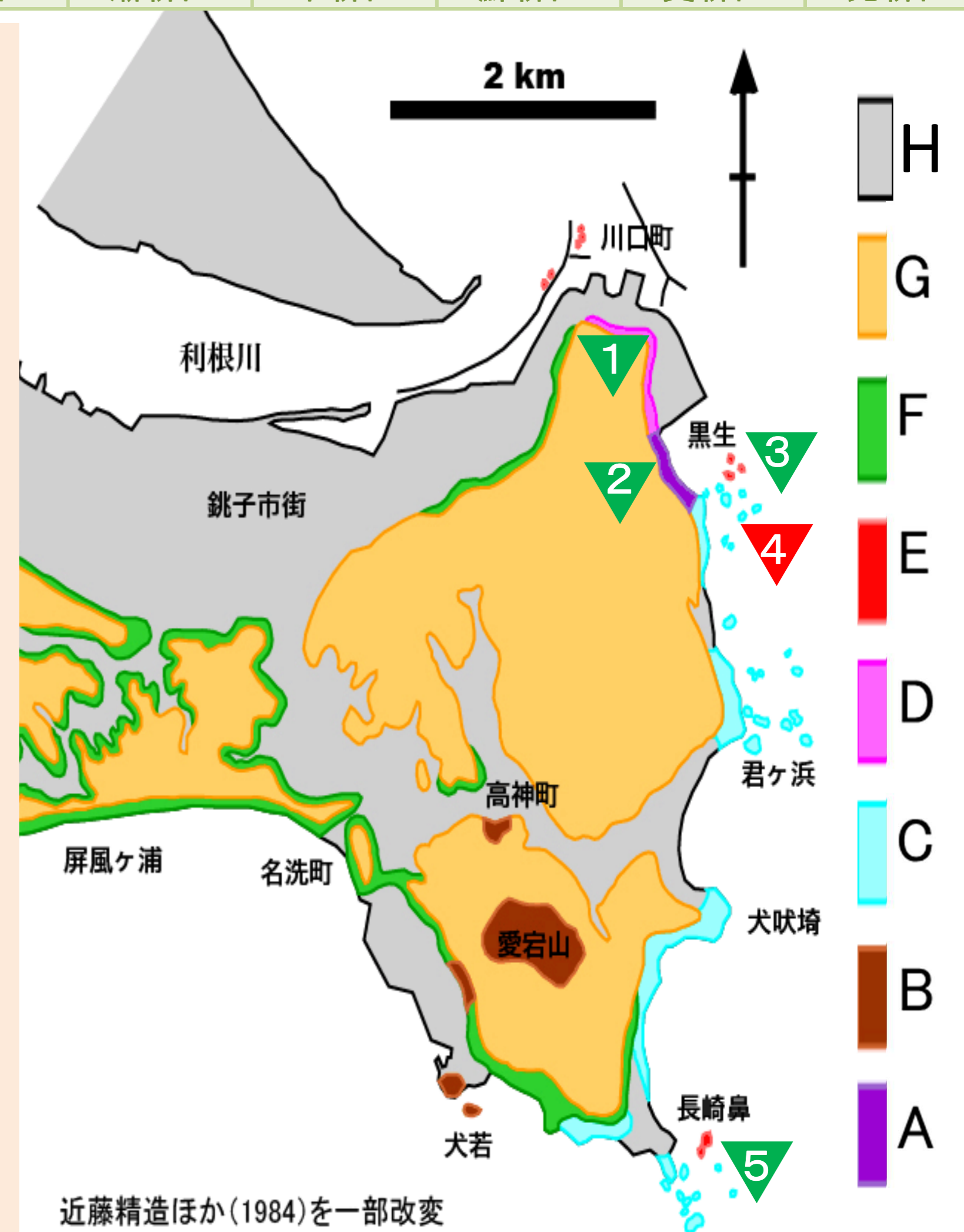


海鹿島礫岩の島 海鹿島沖

古生代			中生代				新生代						
デボン紀	石炭紀	ペルム紀	トリアス紀	ジュラ紀	白亜紀	白亜紀	古第三紀		新第三紀		第四期		
3.59億	2.99億	2.51億	2.00億	1.46億	9960万	6600万	5600万	3400万	2300万	530万	260万	1万	
					前期	後期	暁新世	始新世	漸新世	中新世	鮮新世	更新世	完新世

<写真撮影地は、右地質図の▼4 海鹿島海岸、および▼3 黒生海岸>

- ▼ 中生代・白亜紀には、日本列島の部品となる島弧が、イザナギ・プレートに乗って低緯度帯から北上し、西日本内帯と西日本外帯が、中央構造線で接するようになったとされる。
- ▼ 白亜紀の、まだ低緯度帯にあった島弧の沿岸では、海面下の外浜～沖浜において、隆起したジュラ紀の付加体の上に、陸からの土砂が、嵐などにより、繰り返し堆積した。
- ▼ 島弧の北上と隆起によって、銚子を含む関東山地では、この白亜紀浅海堆積物が、ジュラ紀の岩盤の上に、不整合に堆積している。
- ▼ 銚子半島の東海岸に露頭する白亜紀の地層を銚子層群と呼び、最下部の、基底礫岩を含む地層を海鹿島層と呼ぶ。海鹿島層は、バレミアン期(1億3,000万～1億2,000万年前)に属する。
- ▼ 海鹿島層は、当時の堆積盆を構成していたと考えられる。  
隆起して地上に現れたジュラ紀・愛宕山層群(約1億5,000万年前)の地層が浸食され、礫岩となったジュラ紀の岩体には、海成のチャートや、陸源性の硬砂岩・泥岩などが含まれる。
- ▼ 海鹿島層は、海鹿島周辺だけでなく、東海岸全体に見られる。海鹿島層の最上部である、南の波止山付近では、アンモナイトや二枚貝などの化石や琥珀を、数多く産出した。
- ▼ 黒生海岸には、海鹿島礫岩の大きな岩体があり、その形状から「トンビ岩」と呼ばれている。
- ▼ トンビ岩の傍らに『美賀保丸遭難の碑』がある。幕末の戊辰戦争時、榎本武揚率いる幕府軍の美賀保丸800トン(当時、国内最大級の輸送船)は、将兵614名と多くの軍需物資を搭載し、退路を函館に求めて航行中、暴風雨に遭って黒生沖に漂着、座礁の末に沈没した。地元漁民の献身的な救助を受けたものの、乗船者13名が水死した。生存者中、約250名は土浦へ、約150名は上総の山間部を経て江戸へ向かった。地元では、この地に碑を建てて、遭難者の霊を弔った。碑の下には、遺骨と羅針盤・種子島銃・刀などが埋葬されている。



近藤精造ほか(1984)を一部改変

千葉県立中央博物館提供 <地質図の地質色分けの凡例>

- A. 愛宕山層群(チャート)、B. 愛宕山層群(砂岩・泥岩)、
- C. 銚子層群、D. 夫婦ヶ鼻層、E. 古銅輝石安山岩、
- F. 犬吠層群、G. 香取層&関東ローム層、H. 沖積層